

Title	デュナミス第2号 巻頭の辞
Author(s)	山口, 巖
Citation	ことばの構造とことばの論理 : 山口巖教授停年記念論文集 (1998): 814-811
Issue Date	1998-07
URL	http://hdl.handle.net/2433/65756
Right	
Type	Article
Textversion	publisher

『デュナミス』第2号 1998年3月10日。

デュナミス
巻頭の辞

Nihil est in intellectu,
quod non prius fuerit in sensu.
— J. Locke

Nihil est in rebus,
quod ante non fuerit in verbis.
— A. M. Peshkovsky

DYNAMIS も第2号を刊行する運びになった。またこの講座から2名が無事博士課程に進学することになった。共に慶賀すべきことである。山口は本年を以てこの大学を去るが、この紀要の周りにあった諸君が、やがてこの講座の趣旨を周縁領域に止めることなく、中心領域として独自の学問体系を構築し得る日の、一日も早く来たらんことを願っている。今後の健闘を祈る次第である。

山口 巖
洛東研究室にて
1998年3月